

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	重症児・者デイサービスずーっと		
○保護者評価実施期間	R7年2月17日		～ R7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	R7年2月17日		～ R7年3月4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月7日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験豊富な職員の配置	利用者一人ひとりの特性やニーズに寄り添った支援の実施。スタッフ同士が密に連携し、知識と実践的な対応力を活かして、安心・安全な環境の中で利用者の成長をサポートしています。理学療法士が在籍している事で姿勢調整や運動面など話し合いをし職員間で情報共有をはかっています。	経験に基づいた柔軟な対応や創意工夫を重ねる事で、より質の高い支援をめざします。
2	マンツーマンで利用者に対応することができる	個々の特性やペースに合わせた丁寧なサポートを行う事で安心して活動に取り組める環境を整えています。一人で対応が難しい場合は他の職員の応援依頼をしています。	細やかなコミュニケーションを大切にし利用者の成長や変化に応じた対応をすすめる。
3	高知市の中心部にあり近隣施設に出かけやすいが、周辺環境は自然豊かで屋外活動にも取り組める	四季折々の自然を楽しめる散歩コースがあり、利用者が季節の移り変わりを感じながらリフレッシュできる環境が整っています。	自然のなかでの活動を取り入れることで健康促進や情緒の安定をサポートする。(花を拾って製作するなど)

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	男性職員が少なく、排泄ケアにおいて同姓介助の体制が十分に整っていないことが課題となっています。	男性利用者が多いときには、男性職員が足りない場合がある。	同姓介助を考慮した人員配置を検討する。 男性利用者の承諾を得たうえで、女性職員が介助する。
2	スタッフ間の情報共有や課題を話し合うために全体ミーティングの時間を確保することが難しい現状です。	職員のみで話し合う時間の捻出が難しい(利用者が朝から夕方まで居る) 就業後に残ってミーティングする事が難しい。	朝礼や終礼を活用して短時間での情報共有を強化。必要に応じて小規模グループでのミーティングを設定する。オンラインの活用。
3	利用者の健康や食の楽しさを支えるため、食事形態の工夫が必要であるが、専門的な知識を持つ支援者が不足しています。	専門的な知識を持つ支援者が不足している。 提供できる食形態に限界がある。	研修会の実施で食事支援のスキルを向上させる。 同一法人で専門的な知識を持つ職員に必要に応じて対応を依頼する。